

暖かな日差しに春を感じ、校内の桜も咲く頃を待ちわびています。私は、校長の近藤と申します。

本日ここに、令和7年海技大学校春季卒業式を『東洋建設アリーナ』で挙行できますことは、本校にとりまして大きな慶びであります。また、保護者並びに関係各位の皆様におかれましては、平素より海技教育機構並びに海技大学校の船員教育・訓練にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本日は誠におめでとうございます。これまで卒業生を様々な面で支えてこられたことに対し深甚なる敬意を表すとともに重ねて深く感謝申し上げます。

さて、卒業生諸君、卒業おめでとうございます。

本日は、その教育内容、修学期間、年齢などが異なる3つのコースが卒業式を迎えたことになります。これらのコースを巣立つ卒業生に対し、海技大学校教職員を代表し激励の言葉を贈ります。

海上技術コース航海専修 10 名、機関専修 9 名の皆さん、

諸君は海上技術短期大学校で修得した 4 級海技士の知識を基礎として、2 年間、3 級海技士に必要な知識、技術を学んできました。座学、実習、乗船訓練などを組み合わせたこの 2 年間、決して毎日が楽しいということではなかったかも知れませんが、その中で上級免許取得のため充実すべく学生生活を送られた皆さんの努力に対し心から敬意を表したいと思います。

諸君は 3 級海技士免許と、航海・機関反対の 4 級海技士免許の資格を持つという、他の船員教育機関の出身者にはない特徴を有した海技者ということになります。その特徴も活かし、日本海運界に多大な貢献をしていただくことに期待しています。

海上技術コース航海専攻14名、機関専攻14名の皆さん、

諸君は一般大学及び大学院で獲得した知識を基礎として、2年間、3級海技士に必要な知識・技術を学んできました。2年前の諸君は、船の知識に関しては全く白紙の状態で船員という職業を選択し、希望と不安を胸に本校に入学してきたことでしょう。その後、本校における座学、機構練習船・社船練習船における乗船実習を経て、2年前から成長したご自身が今ここにいることと思います。諸君のたゆまぬ努力に対し敬意を表します。当コースも2005年の設立以来20年目を迎え、卒業生には、各船会社の運航する船舶において船長・機関長として、あるいは陸上業務において第一線で活躍する先輩らがいます。諸君もその先輩達に続き、船会社にとって重要な構成員の一人となるよう大きく成長して行くことに期待しています。

海技士コース3級航海6名、3級機関6名の皆さん、

諸君は現場で培った知識や経験を基礎として、4か月間、3級海技士に必要な知識、技術を学んできました。年齢やこれまでの海上経歴の異なる諸君が、3級海技士免許取得という共通目的の下、航海、機関それぞれのクラスで、年配の学生はその経験を活かし、また若い学生はその柔軟な理解力により、お互いに励まし合いながら過ごしてきた4か月だったと思います。学校における勉強生活から離れて久しい者がほとんどである中で、その努力に対し心から深い敬意を表します。この海技士コース3級は、海技大学校に脈々と続いている船員再教育コースの一つです。その長い伝統ある教育課程の卒業生として、これまで以上にそれぞれの船会社で活躍されることに期待しています。

卒業生諸君は、来週3/17から臨時口述試験が控えています。口述試験では、本校でのこれまでの授業等を通して獲得した知識はもちろんのこと、毎日の学生生活での真摯な態度が必ずや

諸君を合格に導いてくれるはずです。自信を持って試験に臨んでください。

社会に出れば理想と現実の間に挟まれることが多々あるはずですが、海技大学校教員の厳しくも優しい指導を思い出し、本質を追究し、考える習慣を忘れず、海技大学校卒業生として誠意と品格をもって業務に臨んでいただくことを切に願っています。困ったときには芦屋・海技大学校にいつでも相談してください。

ただ、社会人はそんなに甘くはありません、立派な海技者になれるよう引き続き努力を続けることも忘れないでください。

海技大学校は今年創立80周年を迎えます。この後斉唱する「海技大学校・校歌」は、創立16周年である昭和36年に、芦屋市移転に合わせ海技大学校に名称変更がなされたことに基づき第3代校長が作詞したものであり、時代に合わせるべく平成31年に編曲していますが、「茅渟の潮～」で始まる歌詞は当時のままですので、変わらぬ想いをこの機会に確認していただきたいと思います。ただ卒業後この曲を耳にすることはあまりないかも知れませんが、卒業証書授与の際に使用した行進曲「威風堂々」、この言葉のとおり「態度や雰囲気には威厳が満ちあふれて立派なさま」をイメージしつつ、是非この曲を聴いた際には海技

大学校を思い浮かべ、時には当校のホームページ等を参考に校歌を口ずさんでいただければ嬉しい限りです。

最後になりますが、

皆さんを取り巻く環境は、DX（デジタルトランスフォーメーション）、GX（グリーントランスフォーメーション）あるいは自動運航船へと発展していくものと推察しますが、これらは船員の基本的なスキルに基づいたものであることを忘れないでください。

今後の皆様のご健勝とご活躍を祈願し、またそれを楽しみにしていますとともに、自分の気持ちに素直に、自分を信じ、自分で判断し、自分のためにご尽力されることを改めてお伝えし、卒業生諸君の希望に満ちた船出を祝し教職員一同で送り出したいと思います。どうか心身ともに健やかにご活躍ください。

令和7年3月14日

独立行政法人海技教育機構 海技大学校長 近藤 宏一